

教科(科目)	地理・歴史(世界史A)	実施学年 (履修規定)	第1学年 必修
単位数	商業科 2単位 食物科 2単位 生活文化科 2単位 福祉科 2単位	教科書	明解 新世界史A 新訂版 (帝国書院)
		副教材	
科目の目標	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
目標達成に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての自覚を促す。</li> <li>・世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多角的・多面的に考察できるようにする。</li> <li>・諸資料から有用な情報を選択し、活用することを通じて歴史的事象を研究する方法を身につける。</li> </ul>		

◇ 進度

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
4	1部 序章 人類のはじまり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の発生と進化の過程</li> <li>・食料生産革命と文明の成立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の世界が形づくられていく過程を理解する。</li> <li>・世界史学習に対し意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul>
	1章 東アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東アジア世界の風土と人々」(p 8～9)で自然環境や地理的位置を確認</li> <li>・中華文明の成立(漢字文化・儒教思想など)</li> <li>・遊牧騎馬民族の活躍(万里の長城・シルクロードなど)</li> <li>・東アジアの国際的な大王朝(律令体制・冊封体制文治主義など)</li> <li>・諸民族によって統治された時代(モンゴル帝国・元寇など)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア世界の歴史の展開によって培われた社会・文化の特質について追求し考察した過程や結果を適切に表現している。</li> <li>・東アジアの国際関係にみられた冊封体制について把握し、その知識を身につけている。</li> </ul>
5	2章 南アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「南アジア世界の風土と人々」(p 22～23)で自然環境や地理的位置を確認</li> <li>・数々の宗教が成立した南アジア(カースト制・仏教の成立・ヒンドゥー教・イスラームの影響など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アジアにおける多様な社会・文化の形成について把握し、基本的知識を身に付けている。</li> </ul>
	3章 東南アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東南アジア世界の風土と人々」(p 26～27)で自然環境や地理的位置を確認</li> <li>・港市ネットワークと東南アジアの宗教</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドと中国の文化の影響を強く受けながら、独自の文化を生み出した東南アジア世界の特質について意欲的に追求しようとしている。</li> </ul>
	4章 イスラーム世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イスラーム世界の風土と人々」(p 30～31)で自然環境や地理的位置を確認</li> <li>・オリエントの古代文明</li> <li>・イスラーム世界の誕生(ムハンマドの登場・ジハードなど)</li> <li>・イスラーム帝国の栄光と分裂(イスラーム法など)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム世界の特質について考察し、その歴史的意義を判断している。</li> <li>・ユダヤ教・キリスト教などの誕生について把握し、基本的知識を身に付けている。</li> </ul>
中間考査 (人類の進化・中華文明の成立～元・カースト制と仏教の成立・イスラーム帝国など)				

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価基準・項目等	評価の規準等
6	5章 ヨーロッパ世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヨーロッパ世界の風土と人々」(p 40～41)で自然環境や地理的位置を確認</li> <li>・ヨーロッパ世界の源流(ギリシア・ローマ文明)</li> <li>・ヨーロッパ封建社会の成立</li> <li>・十字軍と都市・国家の発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ世界の特質について考察し、その歴史的意義を判断している。</li> <li>・ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統キリスト教に関する資料を活用するとともに、ヨーロッパの特質について追求し考察した過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>
	6章 南北アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「南北アメリカの風土と人々」(p 52)で自然環境や地理的位置を確認</li> <li>・独自の文明を築きあげた南北アメリカ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカの独自の文明像を把握し、基本的知識を身につけている。</li> </ul>
	7章 ユーラシアの交流圏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海域世界の成長とユーラシア</li> <li>・東アジア海域とユーラシア</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8世紀以降の諸地域世界の交流に関心を高め、意欲的に追求しようとしている。</li> </ul>
	2部 1章 繁栄するアジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴル帝国のあとにおこった諸大国</li> <li>・イスラーム諸王朝の繁栄</li> <li>・明王朝と東アジアの緊張・再編</li> <li>・清帝国の繁栄</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の動向に対する関心を高め、意欲的に追求するとともにそれぞれの社会や文化の特質について考えようとしている。</li> </ul>
7	期末考査(ギリシア・ローマ文明・南北アメリカ文明・十字軍・明～清など)			
8	夏期休暇	・第2回実力テスト(9月実施)に向けての家庭学習		
9	2章 大航海を迎える ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパの目覚め(ルネサンスと宗教改革など)</li> <li>・大航海時代がはじまる(コロンブスとマガリャンイスなど)</li> <li>・アジアの交易に参入するヨーロッパ</li> <li>・ヨーロッパの国づくりと国際関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンス・宗教改革・新航路の開拓と主権国家体制の成立、大西洋貿易の歴史的意義を判断している。</li> <li>・重商主義に基づく経済活動と植民地争奪の展開を理解し、その知識を身につけている。</li> </ul>
	3章 ヨーロッパとアメリカの諸革命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命という大変革の開始</li> <li>・イギリスから独立するアメリカ</li> <li>・フランス革命</li> <li>・ナポレオンのヨーロッパ支配からウィーン体制へ</li> <li>・大西洋を越えて広がる革命の波</li> <li>・市民社会の誕生と社会主義運動の発生</li> <li>・“世界の工場”イギリス</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成について考察し、その歴史的意義を判断している。</li> <li>・資本家と労働者の成長、自由主義と社会主義の思想の誕生について理解し、その知識を身につけている。</li> </ul>

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
10	4章 自由主義・国民主義の進展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀の転換点</li> <li>・国民国家の発展と列強の世界進出</li> <li>・アレクサンドル2世とロシアの革命</li> <li>・リンカンと南北戦争</li> <li>・科学の世紀</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀の転換点となる1948年を節目に、自由主義と国民主義が進展した19世紀後半の欧米社会について意欲的に追求しようとしている。</li> </ul>
	5章 アジア諸国の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オスマン帝国の弱体化</li> <li>・エジプト、スーダンとイラン</li> <li>・ムガル帝国の崩壊とインド大反乱</li> <li>・東南アジアの植民地化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容などに関する資料を活用するとともに、19世紀の世界の一体化について追求し考察した過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>
	6章 東アジアの大変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国と日本の近代化</li> <li>・アジアにおける工業化と日清戦争</li> <li>・東アジアをめぐる国際関係</li> <li>・孫文が導いた辛亥革命</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ文明の導入と近代化に関して、日本とアジア諸国の歴史を比較して考察し、その歴史的意義を判断している。</li> </ul>
中間考査（ルネサンス・宗教改革・世界の一体化・東アジアの変動など）				
11	3部 1章 現代世界のめばえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次産業革命と大衆社会の出現</li> <li>・世界を分割する帝国主義</li> <li>・世界の一体化と人口移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀という時代の特質に対する関心を高め、人類史的視野から意欲的に追求しようとしている。</li> </ul>
	2章 第一次大戦がもたらしたもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張</li> <li>・第一次世界大戦</li> <li>・ロシア革命と民族の問題</li> <li>・ウィルソンとヴェルサイユ体制</li> <li>・アメリカの大量消費社会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の原因・性格、それらが及ぼした影響に関する資料を活用するとともに、追求し考察した過程を適切に表現している。</li> </ul>
12	3章 “民族自決”を求めて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インド、中東の民族運動</li> <li>・東アジアの民族運動（三・一運動と五・四運動など）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会変革へのアジアの主体的な動きについて意欲的に追求しようとしている。</li> </ul>
期末考査（帝国主義・第一次世界大戦・ベルサイユ体制・アメリカの繁栄など）				
1	4章 経済危機から第二次世界大戦へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌とローズヴェルト</li> <li>・ファシズムの台頭（ムッソリーニとヒトラーなど）</li> <li>・日本が引き起こした日中戦争</li> <li>・第二次世界大戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀前半の国際政治の流れ、現代の戦争の特質と平和の意義などについて意欲的に追求しようとしている。</li> <li>・全体主義の台頭の背景について理解し、その知識を身につけている。</li> </ul>

月	単 元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
2	5章 冷たい戦争と国際社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい対立と協調のはじまり</li> <li>・冷たい戦争</li> <li>・達成されるアジアの独立</li> <li>・多極化する世界（第三勢力の形成と西欧，日本の復興など）</li> <li>・ゆらぐアメリカ，ソ連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1970年頃までの世界の政治・経済の動向について考察し，第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立について公正に判断している。</li> </ul>
	6章 地球社会の到来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進工業国の模索</li> <li>・冷戦の終わりとかわる社会主義</li> <li>・国々がかかえる現在の課題</li> <li>・世界は国境を越えて</li> </ul>		
3				<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後世界のあり方が大きく変容したことと，これから国際社会における日本の役割について意欲的に追求するとともに，国際社会に主体的に生きる国家・社会に一員としての責任を果たそうとしている。</li> </ul>
学年末考査（世界恐慌・第二次世界大戦・冷戦・多極化する世界など）				

評価の観点及び趣旨

① 関心・意欲・態度

近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追求するとともに，国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。

② 思考・判断

近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし，世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ，公正に判断する。

③ 資料活用の技能・表現

近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに，追求し考察した過程や結果を適切に表現する。

④ 知識・理解

近現代を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を我が国の歴史と関連づけながら理解し，その知識を身につけている。

「世界史A」の総合評価における各観点の割合

① 関心・意欲・態度	30 %程度	② 思考・判断	20 %程度
③ 技能・表現	20 %程度	④ 知識・理解	30 %程度